



湾岸・アラビア半島地域ニュース

バハレーン：対外直接投資の増加

(10月18日付現地各紙)

1. 10月17日、バハレーン経済開発委員会 (EDB) のムハンマド総裁は、国連貿易開発会議 (UNCTAD) の発行した報告書によると、バハレーンの2006年の外国直接投資 (FDI) の受け入れ額は29.15億米ドルに達し、2005年の10.49億米ドルからほぼ3倍に増加したことを明らかにした。
2. 「世界投資報告2007」と題された同報告書では、昨年のバハレーンへの投資額は不動産、金融セクターの貢献が大きいとされている。又、FDI受け入れ実績部門では、バハレーンの世界ランクが23位から11位に上昇している。FDI受け入れ可能性部門では、前回と同様32位となっている。
3. ムハンマド EDB 総裁の発言
FDIの増加は、バハレーンの経済的な健全さを示すと共に、海外投資家がバハレーンの強力且つより整備されたインフラに対して信頼を寄せていることを示している。バハレーン経済を発展させ、海外投資家の選択肢となるという我々の取り組みが、このような具体的成果に表れたのは喜ばしい。当地域でも、FDI受け入れが減少している国がある中で、我が国が大幅に増加したのは、海外投資家の信頼の証明に他ならない。
4. 同報告書は、141の国家と多国籍企業を対象にランク付けを行っているが、FDIの総額は1.3兆米ドルとなり、前年比38%増加した。この傾向は、先進国、発展途上国或いは市場経済移行国という全てのカテゴリーに当てはまる。同報告は又、南半球の国家間でのFDIの増大を指摘している。
5. バハレーン、及び中東を含む西アジア地域のFDI受け入れ額は600億米ドルで、前年比44%の増加となった。当地域からの対外投資は140億米ドルで、主に英国、カナダ、米国などの先進国に加え、パキスタン等が多い。当地域の対外投資は、石油、ガス及びその関連産業や通信産業が中心となっている。